

2021 年度冬期の大雪条件下における札幌市の冬道転倒による救急搬送状況  
Pedestrian's Slip and Fall Accident in Sapporo during 2021-22 winter○永田 泰浩<sup>1</sup>, 金田 安弘<sup>1</sup>  
Yasuhiro Nagata, Yasuhiro Kaneda

## 1. はじめに

ウインターライブ推進協議会の事務局を務める当センターでは、これまで、札幌市消防局との連携により、札幌市における冬道での転倒による救急搬送者について整理、分析を行い、転倒予防のための啓発活動を行ってきた。

2021 年度冬期（以後“12 月～3 月”を冬期とする）の札幌都市圏は大雪に見舞われ、特に 1 月から 2 月にかけて、度重なる降雪により車道や歩道の除雪作業が追いつかない状況となった。こうした大雪による影響を把握するため、札幌市消防局の冬道での転倒による救急搬送者データの分析を行った。

## 2. 2021 年度冬期の冬道転倒による救急搬送者数

2021 年度冬期（12 月～3 月）の札幌市における冬道での転倒による救急搬送者数は、1290 人であり、2012 年度冬期の 1317 人に次いで 2 番目に救急搬送者数が多い冬期となった。特に 2022 年 1 月と 2022 年 2 月は、詳細なデータが残る 1996 年度以降の 26 冬期で、月合計の救急搬送者数が最大となった。

## 2.1 2022 年 1 月の救急搬送の発生状況

2022 年 1 月の日救急搬送者数と毎時の気温、降雪の深さの経過を図 1 に示した。1 月の救急搬送者数の合計は 433 人であったが、17 日から 20 日までの 4 日間に 148 人が救急搬送されており、月の救急搬送者の 1/3 がこの 4 日間に集中していた。気象経過については、2022 年 1 月 11 日から 17 日までの 7 日間、昼夜を問わず気温が 0℃以上となる時間帯が多く、この時期としては暖かい日が続いていた。降雪も記録されており、湿った降雪があったと考えられる。17 日の午後からは気温が急激に低下し、低下のタイミングで救急搬送者が急増していた。気温の高い状態が続いた後の急激な冷え込みにより、滑りやすい路面が発生したことが救急搬送者の集中的な発生に影響した可能性が考えられる。

## 2.2 2022 年 2 月の救急搬送の発生状況

2022 年 2 月の日救急搬送者数は、23 日が 30 人、24 日が 29 人、25 日が 24 人と多かったが、他に 20 人に達した日はなく、30 人を上回るような日もなかった。市内の積雪量が 50cm 増加した 2 月 5 日～6 日の大雪時や大雪後も救急搬送者数は増加していな

かった。一方、日救急搬送者数が一桁にとどまった日数を確認すると、図 1 に示した 2022 年 1 月は 14 日あったのに対し、2022 年 2 月は 8 日と少なかった。過去 26 冬期のデータから、2022 年 2 月と同様に月の救急搬送者の合計が 300～400 人に達した月を抽出し、1 ヶ月のうち日搬送者数が 10 人以上に達した日の割合を整理して、図 2 に示した。2022 年 2 月は 10 人以上の日の割合が 71%であり、過去にない頻度であった。2022 年 2 月は、極端に救急搬送者が多い日はなかったものの、2 月 6 日の大雪後は毎日のように 10 人以上が救急搬送されていた。歩道の凹凸や歩車道の段差が大量に発生し、除雪作業が追いつかない状況もあって、あちこちで歩きづらい路面が発生したことが影響した可能性がある。

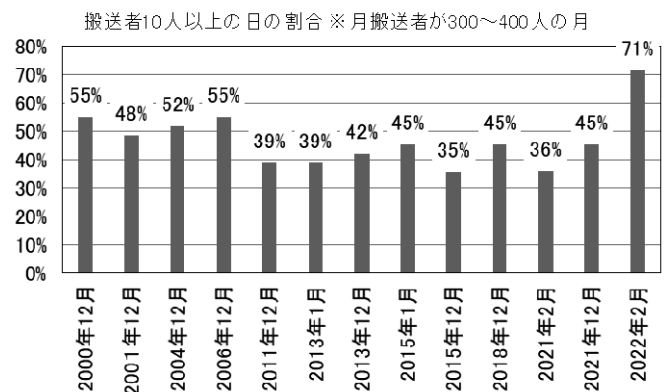


図 2 救急搬送者が 10 人以上の日の割合 (月搬送者 300-400 人)

## 3. まとめ

2021 年度冬期は 1 月と 2 月の救急搬送者が過去 26 冬期で最多となった。1 月は中旬に暖かい日が続く、その後冷え込んだこと、2 月は大雪によって歩きづらい路面が市内で多発したことが、転倒による救急搬送の多発に影響した可能性が高い。

## 【謝辞】

分析にあたり、転倒による救急搬送者データをご提供いただいた札幌市消防局様に深く御礼を申し上げます。

## 参考文献

- 1) 永田泰浩, 金田安弘: 札幌市における冬道での自己転倒による救急搬送の特徴分析, 雪氷研究大会 (2021・千葉)講演要旨集

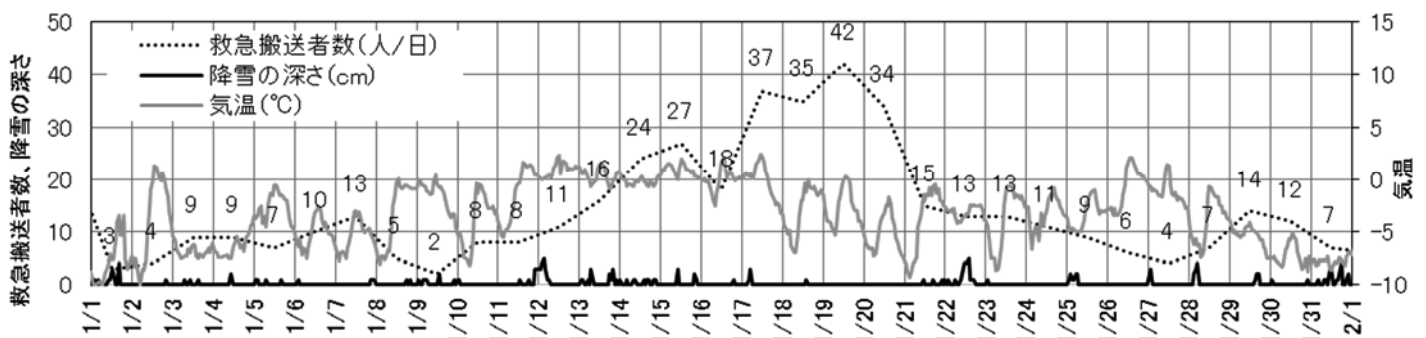


図 1 2022 年 1 月と 2 月の日救急搬送者数と気温および降雪の深さの経過

1 北海道開発技術センター

Hokkaido Development Engineering Center